

地域医薬品提供体制構築推進事業について
＜地域の実情・検討資料＞

1. 薬局の体制を一元化した「薬局リスト」について
2. 薬局の調剤実績が把握可能な「採用品共有システム」について
3. 地域の「一次救急対応状況」について
4. 地域の「在宅対応」について

医薬品提供体制の現状 その1 「薬局リスト」

「薬局リスト」について

- ・令和6年度より薬局の医薬品提供体制や機能について、「外来」「在宅」「災害時・新興感染症蔓延時」の3区分で滋賀県薬剤師会が作成している。
- ・滋賀県薬剤師会HPの他、地域の実情に応じて住民や多職種がいついかなる時でも医薬品入手や相談等の際に困らないようにリストの周知している。

リストの公開状況や活用状況について

- | | |
|----------|--|
| ①地域薬剤師会 | 【公開】 |
| ②市町のHP | 【非公開】 |
| ③リストの配布先 | 【現在なし】 |
| ④活用状況 | 【現時点ではリストを目にする人が少ない。今後は在宅医や訪問看護にあたるすべての医療従事者に活用してもらいたい。各団体に案内のリーフレットを配布したいので協力をいただきたい】 |
| ⑤その他 | |

論点

- ・薬局リストの活用に関しての好事例や現状のリスト掲載項目や周知方法などの課題に関する意見を収集するべきでないか。〈協議会后意見募集〉
- ・薬局リストの活用を広めるために、周知方法などについて意見を求め対策を検討してはどうか。

1. 薬局の体制を一元化した「薬局リスト」について
- 2. 薬局の調剤実績が把握可能な「採用品共有システム」について**
3. 地域の「一次救急対応状況」について
4. 地域の「在宅対応」について

医薬品提供体制の現状 その2 「採用品共有システム」

「採用品共有システム」について

- ・個々の薬局で使用医薬品をシステムに登録し、どの医薬品がどの薬局に在庫しているか検索できるシステム。（滋賀県薬剤師会運営）
- ・地域で使用されている医薬品をタイムリーに把握することが可能。
- ・未在庫品目・数量不足品目の検索、分譲依頼が速やかに可能となり、患者への迅速な医薬品提供に活用が可能。
- ・デッドストックがある場合に登録することができ、デッドストック解消にも寄与。

システムの導入状況について（R7.11末時点）

- ①県全体 【導入率49%（560薬局中273薬局）】
- ②地域 【導入率54%（50薬局中27薬局）】

システムの活用方法について

在宅を含む夜間休日に必要となる医薬品をリスト（地域標準薬リスト）化することに活用できる
地域標準薬は、救急搬送する状態に使用する医薬品でなく、慢性疾患対象薬を除く
リスト掲載品目は50～100品目を想定しており、採用品共有システムデータに基づき地域薬剤師会が作成

論点

- ・採用品共有システムへの導入率を高めるための方法について意見を求めているかどうか。
- ・地域標準薬の策定・運用に向けては、関係者間で検討しているかどうか。
- ・地域標準薬が運用される場合は、救急搬送の必要がなく、翌営業日までしのぐために必要な事例であると想定していることを共有すべきと考えるかどうか。

医薬品提供体制の現状 その2 【参考】

「地域標準薬リスト」の例

湖南広域休日診療所採用リストを参考に作成 ※約60品目

| 薬効分類 | 医薬品名 |
|--------------|---|
| 解熱・鎮痛・抗炎症 | アセトアミノフェン坐剤 200mg カロナル錠 200mg サラザック配合顆粒 ロキソプロフェンNa錠 60mg |
| 抗不安薬 | ジアゼパム錠 2mg ダイアupp坐剤 6mg |
| 自立神経系作用薬 | ブチルスコポラミン臭化物錠 10mg |
| 抗めまい薬 | ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg |
| 利尿薬 | フロセミド錠 20mg |
| 抗狭心症薬 | ニトロペン舌下錠 0.3mg |
| アレルギー治療薬 | フェキソフェナジン錠 60mg プラナルカスト錠 225mg |
| 気管支拡張薬・喘息治療薬 | パルミコート100 μ gタービュヘイラー メプチンエアー |
| 鎮咳薬 | デキストロメトルファン臭化水素酸塩錠 15mg |
| 去痰薬 | カルボシステイン錠 500mg |
| 消化性潰瘍治療薬 | ファモチジン錠 10mg ランソプラゾールOD錠 15mg レバミピド錠 100mg |
| 健胃・消化薬 | ドンペリドン坐剤 30mg メトクロプラミド 5mg |
| 下剤 | グリセリン浣腸液50%Sタイプ マグミット錠 500mg |
| 止痢・整腸薬 | ビオフィェルミン錠 ビオフィェルミンR錠 ロペラミド塩酸塩カプセル 1mg |

| 薬効分類 | 医薬品名 |
|--------------|---|
| 副腎皮質ホルモン製剤 | プレドニン錠 5mg リンデロンシロップ 0.01% |
| 抗菌薬 | サワシリン錠 250mg アジスロマイシン錠 250mg レボフロキサシン錠 250mg |
| 抗ウイルス薬 | バラシクロビル錠 500mg オセルタミビル錠 75mg イナビル吸入粉末剤 |
| 止血剤 | トラネキサム酸 500mg |
| 眼科用薬・耳鼻咽喉科用薬 | オロパタジン点眼液 0.1% レボフロキサシン点眼液 0.5% リンデロン点眼・点耳・点鼻薬 0.1% |
| 口腔用薬 | SPトローチ 0.25mg デキサメタゾン口腔用軟膏 0.1% |
| 皮膚用薬 | アラセナA軟膏 3% ゲンタマイシン硫酸塩軟膏 0.1% エキザルベ キンダベート軟膏 0.05% マイザー軟膏 0.05% リンデロンVG軟膏 0.12% ロキソプロフェンナトリウムテープ 100mg MS冷シップ |
| 麻薬 | モルヒネ塩酸塩錠 10mg オキシコドンTR錠 5mg デュロテップMTパッチ 2.1mg |

1. 薬局の体制を一元化した「薬局リスト」について
2. 薬局の調剤実績が把握可能な「採用品共有システム」について
3. **地域の「一次救急対応状況」について**
4. 地域の「在宅対応」について

医薬品提供体制の現状 その3 「一次救急対応状況」

「一次救急対応状況」について

- ・一次救急（夜間休日の外来対応）は地域によりさまざまで、地域薬剤師会が関与・把握していない地域もある。
- ・また、地域においては外来・在宅患者の急変時に、休日急病診療所や当番病院対応以外の「個別に対応する事例」がある（今後増加する可能）。

一次救急の対応状況について

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| ①主に休日 | 【休診・薬剤師会関与有】 |
| ②主に夜間 | 【特定の病院・薬剤師会関与無】 |
| ③周知状況 | 【特になし】 |
| ④薬局調剤対応時間 | 【最遠地域までのアクセス時間は15～30分程度（約1.5km）】 |
| ⑤薬局訪問対応時間 | 【最遠地域までのアクセス時間は15～30分程度（約1.5km）】 |
| ⑥医薬品提供の地域課題 | 【沖島はどうか】 |

論点

- ・地域の一次救急提供体制は、関係者がその体制を理解すること、救急体制を住民に広く啓発すること、適切な受診を周知啓発することが重要だが、このことをどう考えるか。
- ・夜間休日に地域の薬局が対応する場合、課題や障害となり得る要素を把握すること、必要な対応策などについて意見を求めているかどうか。⁹

1. 薬局の体制を一元化した「薬局リスト」について
2. 薬局の調剤実績が把握可能な「採用品共有システム」について
3. 地域の「一次救急対応状況」について
4. 地域の「在宅対応」について

医薬品提供体制の現状 その4 「在宅対応」

「在宅対応」について

- ・在宅患者であるが処方箋は外来（薬剤師による訪問がない）という事例がある。この場合において、急変時の医薬品提供に課題が出やすい。
- ・麻薬や無菌調剤については外来もあるが、在宅患者が多い傾向がみられる。
- ・麻薬や無菌調剤自体やそれらに対応できる体制を有す薬局は増加しているが、対応している薬局は微増である（オーダーの集中傾向）。
- ・今後を見据えると、患者の居住地に近い薬局が多職種と連携して対応することと、薬局間の連携強化が重要となる。
- ・医薬品提供が困難な地域について、その状況を関係者間で共有し、医薬品提供に支障がでないような対応が求められる。

在宅の対応状況について

薬局調査結果参照

- | | |
|------------|----------------------------------|
| ①薬局間連携 | 【個々の薬局が在宅対応をされていて、連携は出来ていない】 |
| ②麻薬小売業者間譲渡 | 【再検討・再構築の必要性を感じているがその取り組みはしていない】 |
| ③薬局間連携の課題 | 【薬局間で連携出来る関係性が十分ではない】 |
| ④薬局調剤対応時間 | 【最遠地域までのアクセス時間は15～30分程度（約1.5km）】 |

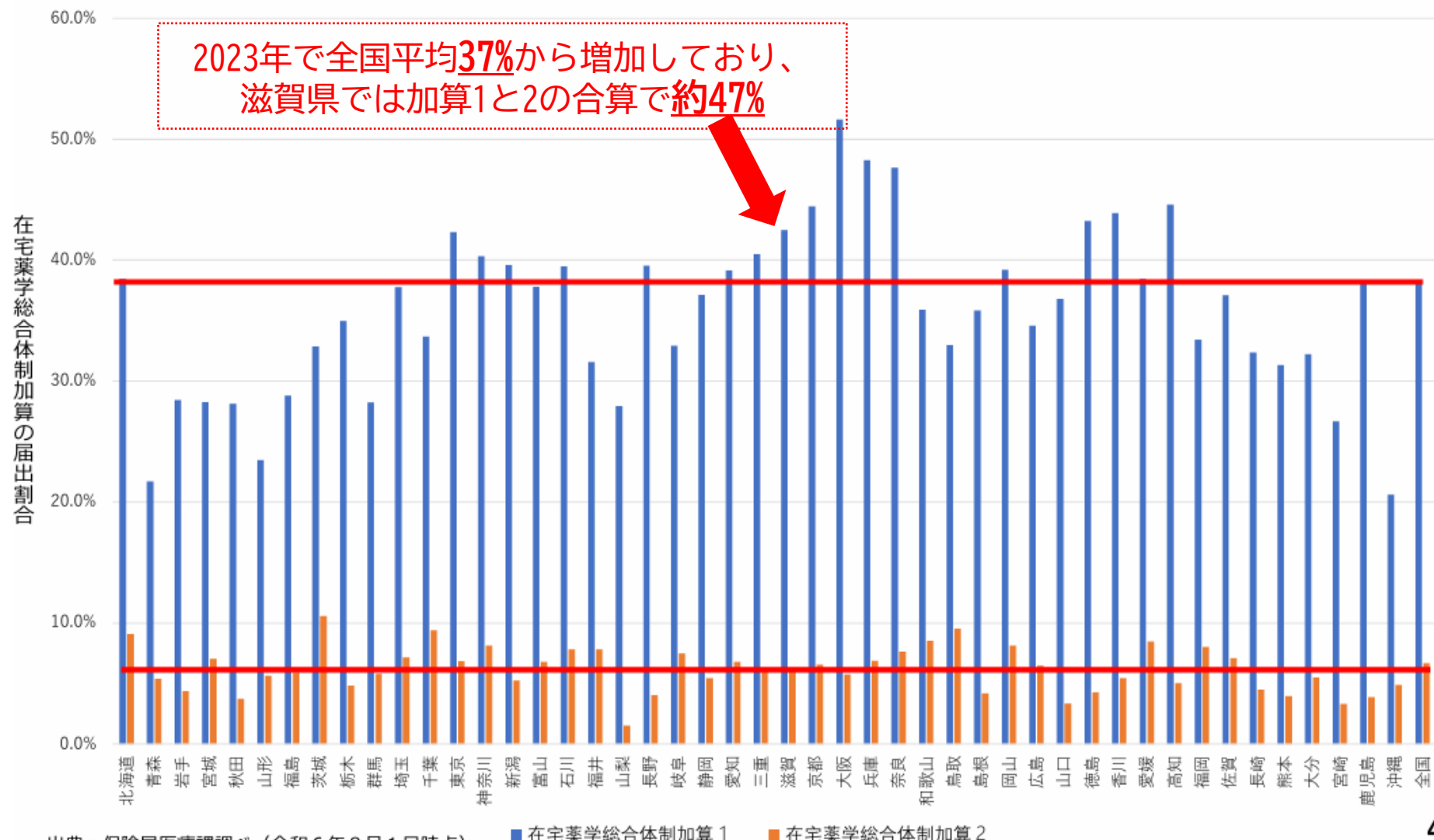
論点

- ・在宅患者であるが処方箋は外来（薬剤師による訪問がない）という状況や課題、解決策等についてどのように考えるか。
- ・麻薬や無菌調剤を含む在宅患者に対する医薬品提供・在宅訪問対応を行う上で、対応薬局の偏り・多職種連携・薬局間連携・についてどのように考えるか。
- ・医薬品提供が困難な地域への対応についてどのように考えるか。

医薬品提供体制の現状 その4 参考

在宅薬学総合体制加算の都道府県別届出状況

○ 在宅薬学総合体制加算の届出割合は、都道府県ごとに差がある状況である。



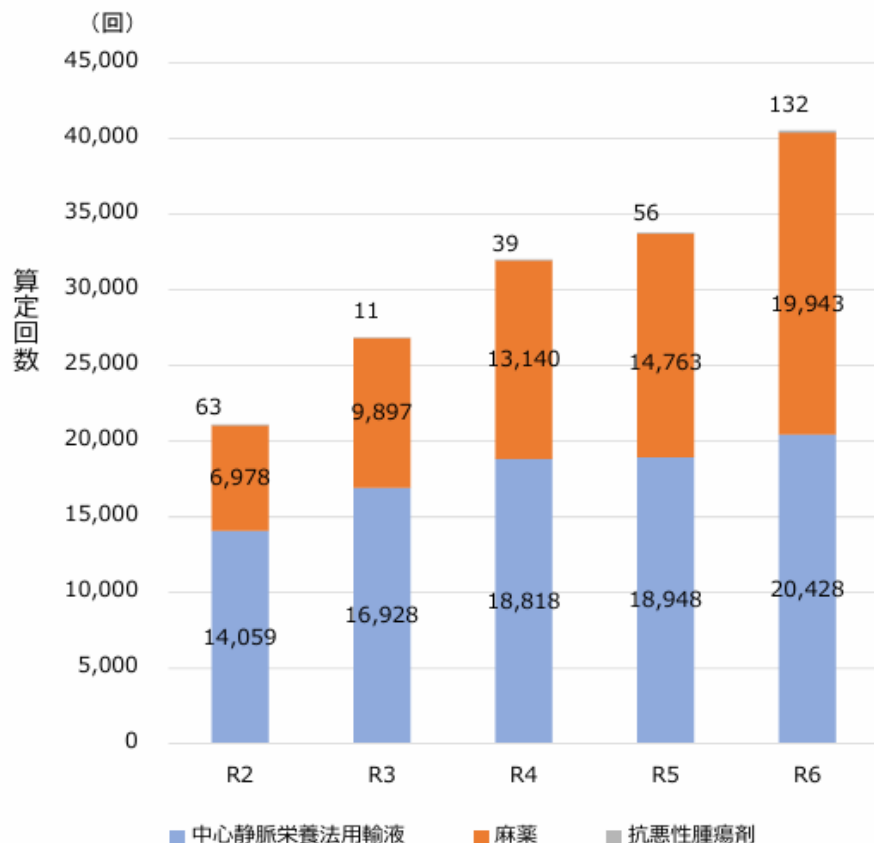
出典：保険局医療課調べ（令和6年8月1日時点）

医薬品提供体制の現状 その4 参考

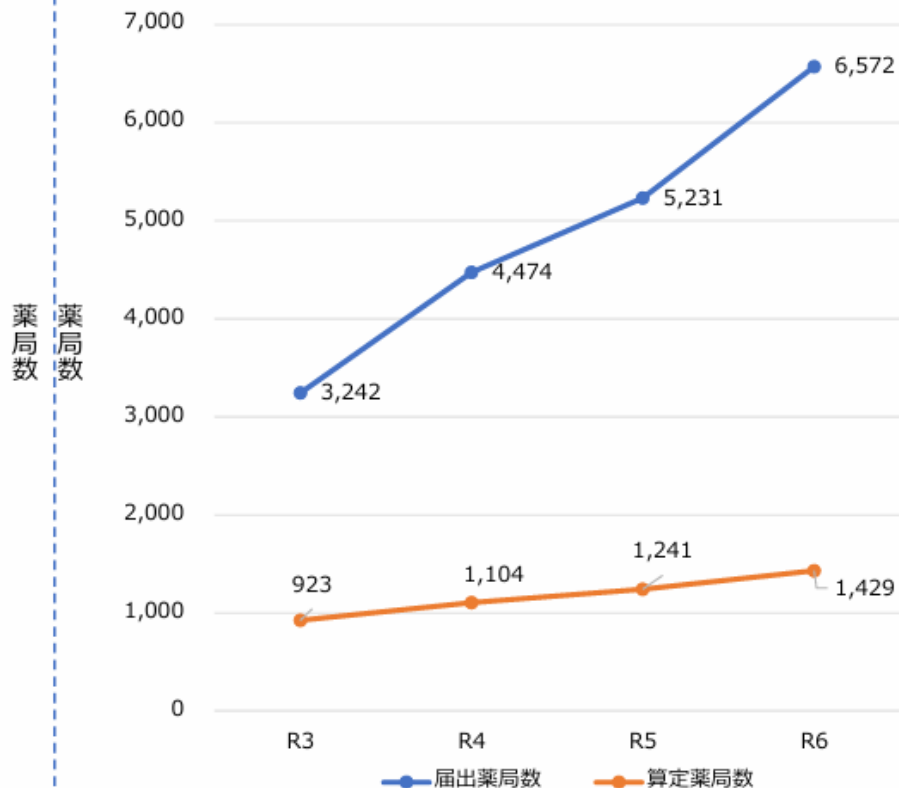
薬局における無菌製剤処理の実施状況

- 無菌製剤処理加算の算定回数は増加傾向である。
- 算定薬局数及び届出薬局数も、ともに増加傾向であるが、その伸び方には差がある。

■ 無菌製剤処理加算の算定回数※1



■ 無菌製剤処理加算の算定薬局数・届出状況※2



※1：社会医療診療行為別統計（令和5年まで6月審査分、令和6年8月審査分）

※2：令和2年～令和6年分NDBデータより医療課作成